

connekoーコネコー

櫻井優妃乃(環境人間学部3年)

キーワード: 子ども, 地域, ボランティア

1. 団体概要

connekoーコネコーは、地域の子どもの対象としたボランティア団体と学生ボランティアをつなぐことで、支援者不足を解消することを目的として、2022年7月に発足した団体である。現在は3年生10名、1年生7名の計17名が所属しており、メンバーも実際に活動に参加することで、学生自身の学びと経験の場を拓ける機会にもなっている。

2. 設立の経緯

設立のきっかけである保坂ゼミでは、居場所についての共同研究をしていくなかで、実際に現代の子どもの現状を把握するために、学習支援団体や子ども食堂など地域のボランティア団体に足を運び、子どもたちとかかわりを持ってきた。その中で、特に子どもに関わるボランティアでは継続性が重要なのではないかという意見が出た。しかし、大学生が個人で地域のボランティアに参加するのでは、最大4年と時間が限られており、継続性に欠けてしまう。そのため、大学として長期的にボランティア活動に関わり、子どもたちを支援していく基盤をつくる必要があると考え、connekoーコネコーを設立した。この団体としての活動によって、長期的な支援が可能になり、現代の子どもが直面する課題を明らかにすることで、その解決を図りたいと考えている。

3. 2022年度の活動内容

私たちは7月に発足した団体ではあるが、7月～10月までは学内への告知の準備を中心にメンバー募集の活動を行っていた。この期間のSNSや授業内での宣伝を通して、設立時のメンバー5名から17名までメンバーを増やすことができた。本格的に活動を始めた10月からの主な活動としては、以下の通りである。

私たちは、毎月1回程度高砂市で開催されている「おかげ村子ども食堂」と「きっずきっちゃんそね」

を主な活動先としており、そこでは子ども食堂の準備・片付け、調理の手伝い、子どもの遊び相手を中心に行っている。メンバーは、多様な子どもへの対応の難しさを感じながら、子どもや活動先のスタッフとのコミュニケーションを通して、自分たちボランティアの必要性を感じることができている。

10月	おかげ村子ども食堂
11月	おかげ村子ども食堂 きっずきっちゃんそね 加古川ツデーマーチ
12月	おかげ村子ども食堂 きっずきっちゃんそね 冬のお楽しみ会 in 庄内神社 あかし子ども財団説明会
1月	おかげ村子ども食堂 きっずきっちゃんそね



写真1 12/4 きっずきっちゃんそね
(出所)所属学生撮影



写真2: 12/10 おかげ村子ども食堂
(出所)所属学生撮影

加えて、地域の子どもに関わるボランティア活動のニーズに応じて、活動を展開している。今年度は、11月には加古川市で行われた「加古川ツーデーマーチ」、12月には大阪府豊中市で行われた「冬のお楽しみ会 in 庄内神社」にボランティアとして参加した。

「加古川ツーデーマーチ」では、規格外などの理由で廃棄されてしまう野菜を使って、子どもたちと野菜スタンプを行い、多くの子どもたちに立ち寄ってもらうことができた。子どもたちは、メンバーが準備した野菜スタンプの中から好きなものを選び、思い思いの作品をつくって楽しんでいた。また、雨により事前に用意してきた模造紙がふやけてしまったことや、絵の具が乾くまでかなりの時間を要したことから、あらゆる状況を想定した準備の必要性を学ぶ機会となった。

「冬のお楽しみ会 in 庄内神社」では、子どもへの聞き取り調査の手伝いを行った。このお祭りは無料で楽しめるものであり、私たちは地域の子どもたちがどのような状況にあるのかを調査するための聞き取りを主に行った。活動に参加したメンバーは小さい子どもに聞き取りを行う難しさを感じながらも、学生ならではの強みを生かすことができたのではないかと考えられる。



写真3 11/13 加古川ツーデーマーチ
(出所)所属学生撮影



写真4 12/4 冬のお楽しみ会 in 庄内神社
(出所)所属学生撮影

4. 活動を通して学んだこと

今年度の活動を通して学んだことは主に2点ある。

1点目は、メンバーと協力しながらゼロからひとつのものをつくりあげることの素晴らしさだ。団体を設立した当初は、メンバー全員が分からないことだらけの状態であった。それに加えて、学内への告知の準備が当初計画していたスケジュール通りに進まなかったこともあった。しかし、メンバー同士で声掛けを行いながらモチベーションを保ったり、メンバーそれぞれが自分自身の得意分野を発揮して団体に貢献することで、目標としていた10月には本格的な活動を開始することができた。この経験は、私たちにこれまでにない達成感を与えてくれただけでなく、メンバーと協力しながらひとつのことを成し遂げる素晴らしさを強く感じさせてくれるものとなっている。

2点目は、学生ボランティアの必要性だ。活動先のひとつである「おかげ村こども食堂」では、来てくれる子どもの人数に対してスタッフの人数が少ないという課題がある。そこで必要となっているのが、学生ボランティアの存在である。「学生がいなかったら、開催するのは難しかった」というおかげ村の村長の言葉にも表れているように、私たちは地域のボランティア団体の存続にとって不可欠な存在となっており、またそれが学生にとって活動に参加するモチベーションにもつながっている。

5. 今後の展望

2022年は設立1年目ながら17名のメンバーを集め、また多くの活動に参加できたことは大きな成果だと考えられる。一方で、ボランティア先のスタッフからは、「もっと多くの学生ボランティアの力が必要。」という声もあがっている。そのため、SNSや学内でのポスターの掲示を通してさらにメンバーを集め、より多くの学生をボランティア先に派遣できるようにしていきたい。

また、活動内容について定まっていない部分もある。例えば、私たちは活動内容にイベントの企画を含めていないのだが、ボランティア先から依頼されることも少なくはない。そういった時にどのような対応を取るかについて、来年度は明確にしていかなければならないと考える。